

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
日本 14 韓国 19	日本 11 韓国 19	日本 10 韓国 19	学生：韓国 19・日本 10 (愛知県 3・福井県 2・大阪府 2・京都府 2・滋賀県 1)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・漂着物の回収を通して、環境問題や日韓のつながりについて考え、課題解決の意識を養う。
- ・日韓交流の歴史について講話を聞いたり、日韓の伝統文化体験、見学をしたりして、次世代リーダーの交流や日韓の相互理解を図り、国際的な諸問題を解決する能力を養う。

◆期日・期間

2013年12月21日(土)～2014年12月27日(金) 6泊7日(日本)
2014年 1月 9日(木)～2015年 1月14日(火) 5泊6日(韓国)

◆後援・協力団体

兵庫県新温泉町・兵庫県豊岡市・京都府宮津市・旦波ロマンの会・雨森芳洲庵 他

◆参加者分析

- ・韓国側参加者は日本に興味・関心を持つ大学生および指導者の計 21 名 (1 回生が 3 分の 2 日本語学科が 9 名)
- ・日本側参加者は環境、国際交流に関心を持つ学生 10 名 (4 回生が 6 人)

◆企画のポイント

期 日	内 容	実施場所など
12月21日(土)	午前：仁川空港発・空路にて関西空港着 午後：日本生活・文化体験①(朝食購入) 夜 ミーティング	フレッシュバザール(兵庫県新温泉町) 宿泊：松の湯(兵庫県新温泉町)
12月22日(日)	午前：環境学習①(海岸清掃・漂流物回収Ⅰ) 日本生活・文化体験②(温泉体験) 午後：環境学習②(コウノトリの取組について) 夜 ミーティング	浜坂県民サンビーチ(兵庫県新温泉町) 湯村温泉：薬師湯(兵庫県新温泉町) 豊岡市立コウノトリ文化館(兵庫県豊岡市) 宿泊：天橋立ユースホテル(京都府宮津市)
12月23日(月)	午前：環境学習③(海岸清掃・漂流物回収Ⅱ) 午後：交流事業(旦波ロマンの会との交流会) 夜：歓迎交流会・ミーティング (含日本伝統・文化体験③：書道体験)	天橋立海岸(京都府宮津市) 府中公民館(京都府宮津市) 宿泊：国立若狭湾青少年自然の家
12月24日(火)	午前：環境学習④(海浜清掃・漂着物回収Ⅲ) 日本生活・伝統体験④(民謡・民舞) 午後：日本生活・伝統体験⑤(うるしダルマ製作) 夜：韓国船救護についての講話、ミーティング	赤石の浜(当施設内) 世久見海岸(福井県若狭町) 国立若狭湾青少年自然の家 宿泊：国立若狭湾青少年自然の家
12月25日(水)	午前：韓国船救護記念碑見学 午後：日本伝統・文化体験⑥(講話・交流・抹茶体験) 夜：ミーティング	泊(福井県小浜市) 雨森芳洲庵(滋賀県長浜市) 宿泊：ルートイン長浜インター(滋賀県長浜市)

12月26日(木)	午前：奈良市へ移動 午後：日本伝統・文化体験⑦(奈良公園散策) 夜：ミーティング	奈良公園(奈良市) 宿泊：ホテルフジ奈良(奈良市)
12月27日(金)	午前：バスにて関西空港に移動 午後：関西空港発、空路にて仁川空港へ	
(派遣プログラム)		
1月9日(木)	昼：関西空港発、空路にて仁川空港へ 夜：ミーティング	宿泊：Tmark ホテル明洞(ソウル市)
1月10日(金)	午前：韓国の歴史と文化の探索① 午後：韓国の歴史と文化の探索② 夜：ミーティング	統一展望台・臨津閣(パジュ市) 民族村(ヨンイン市) 宿泊：Tmark ホテル明洞(ソウル市)
1月11日(土)	午前：世界遺産を楽しむ 午後：ソウルの歴史と文化の探索①	景福宮・故宮博物館(ソウル市) 自由テーマ活動(ソウル市) 宿泊：韓国学生宅ホームステイ(ソウル市)
1月12日(日)	午前：ソウルの歴史と文化の探索② 午後：韓国の文化体験	自由テーマ活動(ソウル市) ナンタ明洞劇場(ソウル市) 宿泊：韓国学生宅ホームステイ(ソウル市)
1月13日(月)	午前：ソウルの歴史と文化の探索② 午後：ソウルの歴史と文化の探索② 夜：ミーティング	南山タワー(ソウル市) 明洞カトリック教会 宿泊：Tmark ホテル明洞(ソウル市)
1月14日(火)	午前：仁川空港に移動 午後：仁川空港発、空路にて関西空港へ	

- ・日韓の伝統文化、歴史的なつながりを理解できるよう講話や体験を組み込んだ。
*講話「韓国船救護についての講話」講師 前小浜市立内外海小学校 校長 大森 和良氏
- ・環境問題を考えるために各地での漂流ゴミ回収活動を行った。
- ・交流や相互理解を深めるために、日韓両国でのホームステイを予定していた。都合により韓国国内のみの実施となった。
- ・幅広い交流を図るために様々な大学より募集を行った。(韓国：13大学・日本5大学、1専門学校)

◆運営のポイント

- ・プログラムの時間配分に配慮し、ゆとりを持って活動に当たれるようにした。
- ・参加者のコミュニケーションを充実させるため言語能力や男女比を考慮して班を構成し、グループ内での教え合いやリーダー性の発揮など学びの場が持てるようにした。
- ・日々の学びを振り返り、共有するため出来るだけミーティングを行った。また、参加者の自主性を引き出すため引率職員の関わりについては配慮をしていくこととした。

◆安全管理のポイント

- ・班には日韓の参加者を配置し、緊急事態には迅速に伝達が行えるよう組織を作り、安全管理を行った。
- ・寒さ対策を心がけ、服装や睡眠、食事等を自己管理するように指導を行った。
- ・慣れない異国での生活ということもあり、異常のある参加者については看護師にチェックしてもらおうようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	97%	3%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	90%	10%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	83%	17%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・充実した日程でした。
- ・なかなか経験できないことができた。
- ・いろんな体験ができてよかった。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・日韓の生活・伝統文化体験により、相互の文化をより深く理解し合えることができた。
- ・次世代のリーダーとして、未来の国際友好関係を築き上げる意志とIT機器やSNS等を活かしたネットワークが構築できた。
- ・海を通しての日韓のつながりや環境問題について知ることができ、課題について解決していこうとする意欲が見られた。

(2) 課題

- ・地域や学校等との交流を増やし、幅広い交流の輪を作ることが必要である。
- ・さらに自主的な活動を行うためにスケジュールを事前に十分に理解し、自分たちで企画、実行できる自己プログラムの充実を図りたい。
- ・たくさんの参加者となるように、参加募集の方法を幅広く行いたい。

5. 活動の様子



温泉体験



コウノトリの取組



交流会



海岸清掃



ゴミ分別作業



遭難船記念碑見学



日本文化体験



韓国歴史遺産見学



韓国ホームステイ